

竹川病院 理学療法士 北田利弘

- 功 績 東京2020オリンピック大会フェンシング競技 理学療法サービススタッフを務め、男子エペ団体チーム金メダル獲得に間接的に貢献した功績
- 推 薦 者 リハビリテーション部 部長 可児利明
- 推 薦 理 由 ①東京2020オリンピック大会フェンシング競技場での理学療法サービススタッフとしての活動
- ②東京都フェンシング協会医事委員会委員、(公社)日本フェンシング協会日本代表チームナショナルトレーナー、日本オリンピック委員会強化スタッフ(医科学)として金メダル獲得への間接的貢献
- ③竹川病院 理学療法科のスタッフ3名を指導し同じ理学療法サービススタッフとして活動できるまでのサポートをしたこと

内 容

フェンシング競技は第1回アテネオリンピックから採用されている伝統的な競技であり、日本国では1952年ヘルシンキ大会から参戦をしている。東京2020東京オリンピック大会では男子エペ団体チームが悲願の金メダルを獲得した。リハビリテーション部から、北田利弘、山田祐太郎、間野旭、日向智の4名が中央競技団体(フェンシング)の推薦により、理学療法サービススタッフとして大会救護を担当した。

リハビリテーション部 北田利弘は(公社)東京都理学療法士協会スポーツ局国際競技大会・スポーツ理学療法推進部の副部長として、東京都内の理学療法士がオリンピックへ参加するための研修会の準備・運営に加え、講師を行った経歴がある。また、2016年からフェンシング競技へ理学療法士として医科学スタッフの役割を果たしてきた。現在は東京都フェンシング協会医事委員会委員、(公社)日本フェンシング協会日本代表チームナショナルトレーナー、日本オリンピック委員会強化スタッフ(医科学)として活動している。

日本フェンシング協会では、競技力向上や競技人口増加のためにPR担当やアナリストなど様々な専門家を配置しており、2020年9月より3名の理学療法士を初めて採用した。北田はその1名である。フェンシング競技力のサポートに加え、当院の理学療法士3名の指導を行い、スポーツ理学療法ビギナーからオリンピックサポートができるようになるまで、5年間にわたり活動を続けた。

今後さらにメディアや社会の注目を浴びるフェンシング協会で活動することは、北田自身の理学療法士としての専門性向上に繋がり、その専門性を理学療法科に還元することは、当院理学療法科の専門性向上に繋がるのが期待できる。

今後も多くのアスリートを支えることにより、理学療法士としての専門性向上を果たし、その専門性をもって当院外来リハビリテーションの発展に寄与していく。

また、この継続した活動の集大成として、エペ団体チームが金メダル獲得の現場責任者として立ち会うことができたのは、これまでの地道な努力が最高の形となって表現されたものと考えます。

これらのことより理事長賞にふさわしい功績として推薦させていただきます